

インターネットラジオ局がつくる“読む”ラジオ

# AWAPURADIO

アワプララジオ通信

2016.02

『東京ラブレター』～インタビューシリーズ～

## 音楽とモノを介して被災地・東北を応援する仕組みをつくるミュージシャン



音楽デュオ 相模の風 THE めをと  
いしはらとしひろさん、風来直さん

[いしはらとしひろ、かざきなお]

夫は妄想、ツマは暴走！？いしはらとしひろ  
&風来直 本物夫婦の最強ユニット

『結婚はネタである』『ライブは祝祭だ！』  
幸せをあなたと共に作り上げる相模の風 THE め  
をと。夫は妄想“いしはらとしひろ”とツマは暴  
走“風来直”の歌って踊って笑わせるライブパフ  
ォーマンスは必見！

※公式サイトより引用

ナビゲーター（インタビュアー）

あべこう一、高木祥衣（OurPlanet-TV）

—東北応援行商ライブについて教えてください。

**風来** 2011年の7月から続けている参加型の音楽イベントです。特徴は、ライブをするだけでなくその場で私たちが購入してきた東北の商品を販売し、また売上げの半分を寄付している点です。松本、大阪、静岡など各地で思いを共有してくださる方がたくさんいて、先日13回目の公演を迎

えることができました。お客さんも徐々に増えていて、「今度東北行ってくるよ」と言って、実際に東北で商品を買ってイベントに持ってきてくださる方もいらっしやいます。

**いしはら** 「次のライブで売ってよ！」とか言われたりして（笑）。

**風来** 自分たちだけだとやはり偏ってしまう部分もありますが、みなさんが本当にいろいろなものを持ってき

てくださって楽しいですね。

**いしはら** 最初はこういった参加型のイベントになるとは全く想定していませんでした。2回目くらいのライブのときにお客さんのほうから「こういうものを買ってきたよ！」とお願いをいただいて、これを仕組みにしちゃえばいいのだと気が付きまして（笑）。4回目のライブからお客さんのほうで気になったものを買って来ていた

だき、それを会場で販売するというやり方を始めました。

モノを通じて少しでも東北に気持ちを向けていただき、震災のことを忘れないようにしてくれる、そして同じような災害が今後いつ起きてもおかしくないので、防災について考えるきっかけになればと思います。

—東京ラブレターへのご出演は2013年の4月以来2度目となります。

**風来** 当時は東北でも仙台や石巻が中心でした。しかし、昨年からは岩手や福島の方にも行くことができるようになり、これまでとは違った景色を見てこられたので自分の中の思いもまた変わったかなと感じていますね。

**いしはら** 僕らもそんなにしょっちゅう東北に足を運べるわけではなく、やはり数ヶ月に1度くらいになってしまうので行けない所も多いですが、そういった中で初めての土地にたくさんうかがうことができるようになりました。少し通るだけでも見てわかることってあるじゃないですか。そういったことに気付くことができ良い経験になりました。

特に福島で起きていることってニュースやネットでおよそのことは頭では理解しているつもりだったんですが、やっぱり実際に見るとものすごく認識が変わりましたね。去年の4月頃、東北応援行商ライブをいつもやっているKAKADO(東京・御茶ノ水)というライブハウスに、福島の相馬や南相馬によく行かれて支援活動をされている方がたまたま見に来てくださっていました。その方が僕らのライブを

見て、福島の浜通りを案内したいと声をかけてくださいます。初対面の方からそんな申し出をいただけるとは思ってもしなかったのが、良い機会だったのでお言葉に甘えて案内していただきました。

いちばん印象的だったのは、フレコンバッグといって放射能の除染作業をした土や放射能を含んでいる残材などを入れた、1~1.5トン程のけっこう大きなゴミ袋が、避難区域の中のかつて田んぼや畑だったような広い土地にたくさん積まれていた光景です。そういう作業方法や袋がたくさんあることは知っていましたが、こんなに至る所に、こんなにたくさんあるということは予想外でした。

でもそれって根本的な解決ではないじゃないですか。ある町の泥やゴミを袋に詰めて別の場所に仮置きしているだけです。原発に対しては賛成、反対さまざまな意見があると思いますが、「今後も原発を押し進めていきたい」のであれば、最低限あの光景を一回見てから考えてほしいですね。

**風来** 自分の畑にそういったゴミ袋が積まれているというのは、もし自分だったらどんな思いがするだろうか考えると、もう気持ちのやり場がないですね。

—ミュージシャンが社会的なテーマに関与することについては、どのようにお考えですか。

**いしはら** この東北応援行商ライブで言えば、これはチャリティーではありません。モノを売るといった仕組みもそうですし、入場料なども含め興行

としてやっています。これまで観てきた中でチャリティーライブと呼ばれるものは良かったためしがありません。それはパフォーマンスよりもチャリティーという気持ちが上回ってしまうからなのでしょうね。理解はできませんが。

この東北応援行商ライブもライブと名がついている以上、東北のためという気持ちも大事ですが、いちばんはライブイベントとして最高の演奏を届けたいと考えています。

**風来** みなさんに楽しんでいただいて、明日少しでも頑張ろうと思ってもらえたら嬉しいですね。最終的に東北がもう応援しなくても大丈夫という状況になったら、お客さんと一緒に温泉旅行に行くのが目標です。

(まとめ：井上舞香)

アルバム『無限循環』(1,500円)



収録曲

1. 残り全部バケーション
2. あさり
3. 水奏
4. 僕はアイソトープ
5. 身を低くして
6. おとなげない大人
7. 鳥奏
8. 無限循環

全国のCDショップ  
Amazonなどで好評発売中



## 東京ラブレター

### 東京ラブレター

毎週木曜日(内容は月替わり)夜10:00~10:30

●2月のオンエア『八ッ場ダム建設反対運動のいま(仮)』

八ッ場ダム反対東京代表 深澤洋子さんに聞く

神戸市長田区のコミュニティFM局『FMわいわい』(77.8MHz)の番組『東京ラブレター』の制作を、アワプラジオは手がけています。東京ラブレターは、首都圏で活動するNPOやNGO、市民グループや個人の方を紹介する番組です。

【パソコンで聴く】「サイマルラジオ」にアクセス。「近畿」→「FMわいわい」を選択。※Macの方はWindows Media Playerをダウンロードしてください。

【スマートフォンやipadで聴く】サイマルラジオに対応したアプリ「TuneIn Radio」をダウンロード。(検索窓で「FMYY」)。

●ナビゲーター：あべこう一、高木祥衣(OurPlanet-TV)

『いい大学を出ていい会社(官庁)に就職して』という価値観」というような言い方。誰もが耳にしたことがあるのではないのでしょうか。テレビ番組などの特集で取り上げられる教育熱心な親と予備校で鉢巻をして勉強に励む子どもたちの姿。しかしその価値観は、バブル崩壊後の失われた10年(20年)で変化した。いい大学を出たからって身分保障なんてない。今は新しい価値観を打ち立てようとする過渡期的状況なのだ、と。大方の見立てはそのようなものでしょう。

だから社会の多数派は大卒でその人たちが社会を動かしている……。いえいえ、ちょっと待ってください。2010年の国勢調査によれば、調査対象者の最終学歴は中学以下が18.8%、高校が48.5%、短大・高専で14.8%。それに対して大学・大学院の卒業者は全体の19.9%。実は大卒者というのは社会の中では少数なのです。その中でも世間でいい大学とされているところを卒業した人なんて、さらに少ないの言うまでもありません。

短大・高専をどちらに含めるかということはあるにしても、日本の7割近くが最終学歴は高卒以下。実際にはこの7割こそが社会のさまざまな場面を支えていると気付けば、少し世の中の見方が変わってくるのではないのでしょうか。

とかく声の大きい者のほうが目立ってしまうもので、いい大学いい会社のような紋切り型が幅を利かせがちですが、社会制度一つにしてもほんの一握りに過ぎない人々の感性や考え方のみでその趨勢を決しようとするからおかしなことになるのです。実際に社会の大枠を決められる立場にある一般的に頭がいいと言われる層の人たちは、もっと自分たちは「選ばれし者」であると同時に、一方で少数派でもあるという現実を自覚していただきたいです。この統計からは、世渡りにかわる部分を中心とする高校教育の重要性ということも見えてきます。

こうした勘違いの一因として、マスメディアによる情報発信の質の問題もあります。怠慢や無知ばかりではなく、そのメディアなりのスタンスもあることは理解しますが、たとえどのような思想信条に依拠するとしても、私たちが生きる社会の姿とはそもそも立ち位置によって見え方も違い、多面的なものであるということはしっかり伝えてほしいと思うのです。(あべこう一/本紙編集長、Singer songwriter, Radio personality)

## Awa Report ロミロミとヨモギ蒸しで更年期を“幸年期”に

今回は、埼玉県春日部市にあるポーライライというお店を運営されている、“幸年期セラピスト”の鶴まゆみさんにお話を伺ってきました。ハワイのヒーリングマッサージであるロミロミと韓国の民間療法であるヨモギ蒸しを提供しているサロン。私も体質改善に通っていますが、細かいところまでこだわりがすばらしく、女性の身体に正面からちゃんと向き合われている感じがします。



施術中の鶴まゆみさん

—どうしてこのサロンを開こうと思ったのですか。

以前に勤めていたところで、更年期の症状に苦しんでいる方がいらっしやあって、体調が優れないせいで上司にいつも叱られていました。彼女を見ているうちにある日「ロミロミをやろう!」と思い立ったんです。

—スピリチュアルのような勤も働くというまゆみさんですから、何かの縁だったのかもしれないですね。

私自身も不妊に悩んでいた時期もあって、無意識に自分に何かできることがないか考えていたのかもしれませんが。こだわり出すとどんどん極めていきたい性分も手伝って、ロミロミの技術を身に付けた後も1年間人体の生理学も学びました。今はフェイシャルのメニューも増やそうと、勉強を重ねているところです。

—一年を重ねると出てくる諸症状にも、前向きに対処していけたら素敵ですね。

女性であれば必ずといっていいほど訪れる更年期を“幸年期”と言えるような時間にしたいですね。お店の名前には「静かな夜」「夜のお散歩」といった意味があり、女性同士ゆっくりリラックスした時間を過ごしたいという願いが込められています。

近年、平均初婚年齢はどんどん上がっており、不妊や更年期にホルモンバランスを崩して悩んでいる女性は沢山いらっしゃると思います。9割くらいの女性が冷え症で悩んでいると言われていて、私もその一人です。現代は男女問わず多忙な時代。女性が社会や家庭で健康に頑張るためにもっと身体を大事にケアできたら、より輝く方が増えるかもしれませんね。(青柳蓉子)

埼玉春日部市のロミロミ&本場よもぎ蒸しサロン  
POLA'ILA'I (ポーライライ)

埼玉県春日部市大畑7-1  
(東武スカイツリーライン武里駅東口3分)  
080-3208-5032 polaisalon@yahoo.co.jp  
<http://polailai.jimdo.com>

# 『GREEN BOOKS』～本の紹介～

## 「運に選ばれる」法則 76 (2013年12月) 桜井章一 著 宝島社・720円



本書では、「雀鬼」の異名で知られており現在も若者に麻雀指導を行っている著者が、運との付き合い方を教えてくれる。実際に勝負で修羅場をくぐり抜けていることもあり、一つの哲学が確立されている。

運を味方につけるといって、すぎるようで心もとない印象を持っていたが、どうやらそういうものではないらしい。他力本願でやる気なく雑に生きるのではなくむしろ感覚を細かにして生きる事を勧める地に足のついた内容である。

著者は運を招くには「小さな気づきを重ねる事」が大切だという。日々の変化やツキの流れに気づくためだ。直感や感覚を磨く、欲を持ちすぎず人として正しいことをする事で運を招く素地を作る。大局観をもち、時間としても空間としても意識できる範囲を広くしておくことも、運をつかむのに大事なようだ。

逆境や運が悪い時にどうするべきかがよく書かれている。ツキがなくなってきた時は基本の動き、心構えに戻る事、運の変化を見定め、自分の足元を見直す事が必要だという。身体性なども大切にしながら、現状に即して正しくリスクに対処しながら生きるヒントになる、かなり良質な自己啓発書だ。(大森周子)

## ヨムヨム旅行記 イグアスの滝 (アルゼンチン、ブラジル)



南米初上陸の67歳になる母を連れてイグアスの滝へ行った。ジャングルのような広大な国立公園内はきちんと整備されていて意外にも気軽に行ける観光地である。

イグアスの滝部分は東京都よりも大きい公園の中の僅か0.3%に過ぎない。それでも大小200を超える滝から構成され世界一の幅を誇っているのだから南米は広い。滝はブラジル・アルゼンチン両国にまたがっており、それぞれ見どころはあるが、中でも一番迫力があるのはアルゼンチン側にある「悪魔の喉笛」だろう。

その名に相応しく、恐ろしいほどの轟音と水煙を従え圧倒的な存在感を感じさせる。

毎分30億リットル以上の水が流れ続けているから、滝の上部に設置された展望台に立つと、風向きによっては台風の中に身を晒しているかのように水飛沫を浴びることになる。いや、ただ流れ落ちるといって、もの凄い水量のある川底の大地が一気に左右に裂けた、という方が合っている。これだけの水をどこに隠しているのか、自然の底力は途方もない。

力強いのは自然だけではない。激しく流れる滝の裏側の岩肌に巣を作るイワツバメという鳥がいる。天敵が来ないから、という理由らしいが彼ら自身も巣へ帰るのは命がけだ。

前回訪れたときはブラジル側の園内にあるホテル「カタラタス」に泊まった。宿泊者は閉園になった後に行われるナイトツアーに参加できる。満月で快晴の夜に行われるこのツアーの目的はムーンボーを見ることだ。太陽光で作られる鮮やかなレインボーも魅力的だが、月の光で作られる淡く白い虹、ムーンボーはさらに神秘的だ。濃紺の闇と轟音で囲まれた景色の中に、眼を凝らさなければ見えないほどの淡い、半円状の虹が浮かび上がったときには鳥肌が立った。

南米の大地で私は目の前を通過する景色にただ圧倒された。人類はこの星の主役じゃない、宇宙に浮かぶ地球という雄大な大地を借りているだけなのだと、なぜだかふと実感した旅だった。(浅香友里) ※ヨムヨム旅行記は不定期連載です。

最新号は千代田区社会福祉協議会(東京)の中にあるちよだボランティアセンターに置かせていただいています。また、アワプラジオやあべこーがかかわるイベント等でも配布しています。バックナンバーがウェブサイト上でダウンロードできます。置き場を提供してくださる方も随時募集しています。発送を希望される方もお気軽にご連絡ください。

<アワプラジオとは>

NPO法人OurPlanet-TVで出会った仲間と、2009年に開局したミニFM、インターネットラジオ局です。名称はOurPlanet-TVの略称であるアワ

ラにちなんでいます(アワプラとは別々の団体です)。

編集長：阿部浩一  
発行：アワプラジオクリエイティブ  
107-0052 東京都港区赤坂3-21-5 三銀ビル3F サポートコール内  
awapuradio@gmail.com  
TEL: 03-6856-0722 FAX: 03-6856-0723  
http://awapuradio.com/